

9.24(振休mon) 戸澤哲夫 モーツァルト・ベートーヴェン ヴァイオリンソナタシリーズ No.2

開演/14:00 会場/弦楽亭 料金/2,500円

Program

■ モーツァルト：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ ト長調 K.301(293a)

モーツァルトが22歳を迎えたばかりの1778年2月頃にマンハイムで作曲された。この作品までに約12年のブランクが存在するヴァイオリンソナタだが、再開のきっかけは、マンハイムへの旅行の途中に立ち寄ったミュンヘンで、ヨーゼフ・シュスターのヴァイオリンソナタを知ったことであり、その作品から大きな刺激を受けたモーツァルトはすぐさま作曲にとりかかった。同年11月にパリで作品1として出版されたため「パリ・ソナタ」と総称される6曲のうち、このK.301はシュスターの影響で生まれた新しい様式のヴァイオリンソナタの第1作にあたり、ピアノとヴァイオリンの有機的で協奏的な融合が光る作品であり、明らかに二重奏ソナタの内容を呈している。

■ モーツァルト：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 変ロ長調 K.454

1784年にウィーンを訪れたイタリアのマントヴァ出身の女性ヴァイオリニスト、レジーナ・ストリナザッキという人物が、ウィーンで自身の演奏会を開くにあたってモーツァルトに共演を依頼した。モーツァルトはこの依頼を承諾し、同年4月29日にこの変ロ長調のソナタが完成した。作品は依頼者の演奏能力を十分に尊重した上で、ヴァイオリンとピアノとが対等に渡り合うように配慮している。また作品の規模が、これまでのヴァイオリンソナタよりも大型化されていることだけに留まらず、構成面での見事さや、ヴァイオリンパートの充実さが光る。

～休憩～

■ プニャーニ：ラルゴ・エスプレッシヴォ

プニャーニ(1731-98)は、イタリアのトリノの宮廷楽団のコンサートマスターなどを務めたヴァイオリニスト・作曲家。6つのオペラ作品も残すなど、作曲活動も意欲的であったが、モーツァルトとほぼ同時期であるにもかかわらず、その作風にはバロックの要素を色濃く残している。二長調の明るく穏やかな中に情感が満ちあふれているこの作品は、6つからなるヴァイオリンソナタ作品8の中の第3番第1楽章にあたり、小品として独立して演奏されることが多い。

■ クライスラー：プニャーニの様式による前奏曲とアレグロ

オーストリア生まれのヴァイオリニスト・作曲家であるクライスラーは、演奏旅行で訪れた地の歴史ある図書館などで埋もれていた作品を発掘し、それを演奏会で取り上げることを楽しみにしていた。その埋もれた作品をそのまま演奏するのみならず、作品の旋律のごく一部を自作に取り入れ、その自作をしばしば「過去の(忘れられた)作曲家の作品を『再発見』した」と称して演奏・出版した。この「序奏とアレグロ」もその一つであるが、プニャーニのこの作品・テーマから引用されたのか具体的な言及は行われていない。荘重な序奏と、軽快で技巧的なアレグロから構成される。

■ ベートーヴェン：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第1番 ニ長調 Op.12-1

モーツァルトによってほぼ完成の域に達した二重奏ソナタとしてのヴァイオリンソナタであるが、ベートーヴェンによってさらに2つの楽器の調和と対比の妙など有機的な繋がりがより進化し、その地位を完全に確立した。今回取り上げる第1番は、ベートーヴェンが27歳の時の1798年に彼にとって第1作となるヴァイオリンソナタとして作曲され、その師であるアントニオ・サリエリに献呈された。ニ長調の明るい曲想で3楽章からなる。しばしば演奏会で取り上げられ、人気も高い。

Profile



戸澤哲夫【ヴァイオリン】

東京藝術大学を経て同大学院修士課程を修了。大学院在学中の1995年より東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター。各地でのリサイタル活動に加えて、東京シティ・フィルをはじめ、東京フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団、広島交響楽団などと共演を重ねている。1998年11月より1年間ドイツ・ベルリンに留学、元ベルリン・フィルコンサートマスターのライナー・クスマウル氏のもとで研鑽を積む。2010年度アリオン賞、2015年第14回佐川吉男音楽奨励賞、2017年第47回JXTG音楽賞洋楽部門本賞を受賞。国立音楽大学及び日本大学芸術学部非常勤講師。



小川由希子【ピアノ】

東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。同大学研究生2年修了。卒業演奏会、読売新人演奏会、茨城県新人演奏会に出演、新人賞受賞。1994年ピティナピアノコンペティション特級、銀賞受賞。1997年第7回日本モーツァルト音楽コンクール第2位受賞(1位なし)。グリーンホール相模大野モーツァルトピアノコンチェルトシリーズ、東京文化会館新進演奏家デビューリサイタルなどに出演。これまでに、日本フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、相模原室内合奏団との共演の他、市民オーケストラなどの定期演奏会のソリストも務める。アルペリ弦楽四重奏団とのベートーヴェン室内楽全曲演奏会を完結するなど、室内楽を中心に活動している。